

本時のねらい

2人の歌声による音楽のおもしろさを感じ取って聴く。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ヘッドフォンを利用し、個人の端末で音楽を聴くことで、自分が気になる部分を繰り返し何度も聴き、より鑑賞を深めることができる。
- ・ロイロノートで音楽を聞くと、音楽が波形で表され、波形に沿って気づいたことを提示していくことで、視覚的に音楽をとらえることができる。
- ・気づいたことや気に入った場所を一枚のノートに提示し、授業支援アプリ（ロイロノート）で共有することで、互いに聴き取った内容や気づきをより深めることができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC（iPad）
- ・授業支援アプリ（ロイロノート）
- ・プレゼンテーションアプリ（Keynote）
- ・ヘッドフォン
- ・電子黒板

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔笛(第2幕)」の冒頭部分を聴き、男声と女声の二重唱であることに気づく。【音色・かけ合い】 ○二重唱、歌劇、ドイツ語であることや、登場人物と物語の設定について知り、もう一度冒頭部分を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有するため、「魔笛」の構成や物語の設定などを電子黒板でスライド（Keynote）提示しながら確認する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで聴く。【かけ合い・音の重なり】 ○パパゲーノ役とパパゲーナ役に分かれて、それぞれの声が聴こえたところで手を挙げる。 ○ヘッドフォンを使用し、iPadで音楽を聞く。 ○ロイロノートで、鑑賞カードに「音楽の要素（かけ合い、音の重なりなど）が書かれたカード」を移動させたり、曲の山や、気に入った部分に矢印を書き込みんだりし、提出する。【かけ合い・音の重なり/くり返し・音の高低・強弱・速度・変化】 	<ul style="list-style-type: none"> ・波形や楽譜を参考にして、重なり方の違いに気をつけて聴く。 ・手を挙げることで自分の役割の歌声に注意し、かけ合いや重なりについて聴くとともに、視覚的にも面白さを感じ取ることができるようにする。 ・電子黒板上で音楽の要素（かけ合い、音の重なりなど）が書かれたカードを3～4枚動かし、作業の内容を全員で確認する。 ・ロイロノートで音源をタブレットPCに送ることで児童が各自で音楽をくり返し聴くことができる。（ヘッドフォン使用）
まとめ (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を共有し、曲全体を味わって聴く。 ・ふりかえりには、わかったことや、友達のカードを見て気づいたことをまとめ、共有フォルダに提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有フォルダで鑑賞カードを共有することで、友達の考えを知り、より音楽への興味を深めることができると考える。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：個人で聴く前に、全員でかけ合いと重なりをチェックしている様子



写真2：ヘッドフォンで視聴し、音楽の要素のカードを動かしている様子

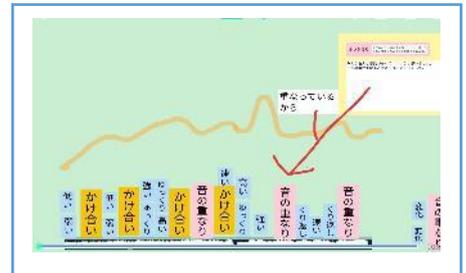


写真3：出来上がった鑑賞カードとふりかえりカード

児童生徒の反応や変容

- ・「かけ合い」と「音の重なり」を中心に、繰り返し聴くことで曲全体を捉えられるようになった。
- ・自分のタイミングや方法で楽曲を繰り返し聴けるので、一人ひとりに合わせた最適な学び方で楽曲と対話することができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

今までの鑑賞は、「全員で同時に楽曲を聴くこと」が通常であったが、タブレット端末を使用することで、「自分の気になったところを繰り返し聴くこと」が可能となった。聴覚と視覚の両面で集中して鑑賞でき、共有や比較をすることで互いの学びにつながった。